

# 夢中熱中青春ライフ!

## 7回シリーズ

### 大館へら鮎釣り研究会

24

微妙な竿合わせで、仕掛けづくりもむずかしい「へら鮎」釣り。それゆえに釣り師たちの心をとらえてはなさない「へら鮎」釣り。今回は「大館へら鮎釣り研究会」（会長・森川六郎さん）の企画担当として活躍する佐藤吉雄さんにお話を伺いました。

### 釣りの魅力は

#### 『無』になれること

昭和四十五年ごろ十人位の会員で始まった研究会も現在は三十三人になりました。会員は二十代から八十代までと幅広く、女性会員も二人います。全県大会で好成績を収める会員もいて、もっか全国大会出場を目標に研



大物をねらう参加者(手代沼)

さんを重ねています。

釣りの魅力は、なんといいても「無」になれることですね。雨の日でも釣れる日は、寒さも忘れてしまいますよ。

研究会では毎年へら鮎釣り大会を開いていますし、昭和五十四年からへら鮎の放流もしています。昨年十一月には塞の神の手代沼と市民の森に合計一トンのへら鮎を放流しました。

### 市民へら鮎釣り大会

#### へ参加してください

研究会では今年も四月二十九日に「大館市民へら鮎釣り大会」を開きます。大会は今回で十二回目をむかえます。昨年も百人を越す人が参加しましたし、今年もたくさんの方に参加してほしいですね。参加する人は、競技ルールと釣りのマナーをきち



釣り場を育成する放流風景(手代沼)

んと守って楽しんでいただきたいと思っています。

それから、釣りファンが安心して釣りを楽しめるような「釣り公園」が実現されるといいなと思うんです。大自然の中で、ウキに集中して無心になれることは素晴らしいですよ。

### 〔市民へら鮎釣り大会〕

#### 参加申し込み

・いとくシヨッピングセンター・大館フオート・波太郎釣具店・渡辺正釣具店へ

#### 〔参加費〕

一般(1,000円)・中高校生(400円)・小学生(300円)

#### 〔参加申し込み締め切り〕

4月22日(木)

※なお、当日は送迎のマイクروبスが運行されます

## 大阪発 → 大館着

### 前略

## 大館市民になりました

25

☆今回は城西町の関俊彦さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか?

妻の美和と長女の真理恵の3人です。

Q・どちらからおいでになりましたか?

去年の十二月、会社の転勤で大阪府枚方市から大館にきました。

Q・大館の印象はいかがですか?

大館に着いた日(十二月二十四日)が大雪だったのでびっくりしました。大阪では、雪はほとんど降らないんですが風が冷たいので、服を着こんだら大館のほうが暖かいですね。山が多くて自然がいっぱいで、すばらしい所だと思います。今年の冬はスキーを楽しみにしています。

Q・食べ物や言葉はどうですか?

私はお酒が好きなんですが、大館の地酒を飲んでみたらおいしくて、自分に合っていると感じました。また、ツクシやワラビなどの山菜も豊富で、妻が喜んでいますが、お年寄りの言葉にはわからないところもありますが、言葉に不便は感じていません。

Q・大館にどんなことを望みますか?

ふだん暮らすうえで、ほとんど感じませんが、仕事で必要な専門書や機械類が手に入りやすいことに、少し不便を感じます。

中央公民館は広くてりっぱですが、自習室のような部屋がほしいですね。

妻は、ブランコやすべり

台のある公園が、近所にあるといいのと言っています。



俊彦さんと奥さんの美和さん  
長女の真理恵ちゃんです